琉球王国の歴史と文化を象徴する首里城の早期再建を求める意見書

去る10月31日午前2時35分ごろ、首里城で火災が発生し、御庭（うなー）を囲む正殿、北殿、南殿の主要建造物と書院・鎖之間（さすのま）、黄金御殿（くがにうどぅん）、二階御殿（にーけーうどぅん）、奉神門の7棟、あわせて約4800平方メートルと琉球王国の多数の美術工芸品が焼失し、読谷村民に強い衝撃と深い悲しみを与えている。

今から74年前の沖縄戦では、20万人余の尊い命を失うとともに、琉球王国の歴史と文化を象徴する首里城をはじめ、先人から引き継いできた重要な文化遺産が焼失・破壊された。

そこで、国は、戦災文化遺産である首里城の復元を求める県民の運動に応えて、1992年、沖縄の日本復帰20周年を記念して、琉球王国の歴史と文化の象徴である首里城の正殿、北殿、南殿などを復元し、国営沖縄記念公園・首里城地区『首里城公園』として開園し、その後も順次整備を行い、本年2月に全エリアを公開した。

2000年12月には、座喜味城跡をはじめ、首里城跡、中城城跡、勝連城跡、今帰仁城跡、斉場御嶽（せーふぁうたき）、玉陵（たまうどぅん）、園比屋武御嶽石門（そのひゃんうたきいしもん）、識名園の県内9カ所の文化遺産が「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として日本で11番目の世界遺産に登録されている。

読谷村民は、琉球王国の文化遺産の復元と伝統文化の保存継承には強い思い入れがあり、村内の座喜味城跡を1973年から1985年にかけていち早く修理・整備してきた。復元された首里城は、座喜味城跡と共に沖縄のアイデンティティの形成や文化の発展、万国津梁として東アジアを結ぶ貿易と平和交流の懸け橋を願うウチナーンチュの心のよりどころとなっている。

しかし、今回の首里城の火災によって、沖縄のアイデンティティ、文化、観光、経済の発展などにも重大な影響を及ぼす事態となっている。

よって、本村議会は、村民が切望する琉球王国の歴史と文化を象徴する首里城の早期再建を実現するように下記事項を強く要請する。

記

1　首里城火災の影響を最小限に抑える各種の取り組みを行政と民間が一体となって早急に進めること。
2　首里城の早期再建をめざし、国と県、関係機関が連携して防火・防災に強い再建基本方針・基本計画等を策定すること。
3　一刻も早い首里城の再建の実現に向けて特別な財政措置を実施すること。
4　村民・県民の皆様をはじめ、首里城の再建を願う多くの皆様の力と英知を結集して心ひとつに取り組むこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和元年 11 月 25 日

沖縄県読谷村議会

あて先

内閣総理大臣、内閣官房長官、国土交通大臣、沖縄及び北方対策担当大臣、
文部科学大臣、文化庁長官、沖縄県知事、